

産業理工学研究科博士前期課程

(社会環境科学コース)

専門科目入試問題

【経営学】

問題は3問あります。2問を選択して回答してください。

受験番号

氏名

この問題を選択した場合は右に○をしてください	
------------------------	--

問題1 海洋プラスチック問題について以下の問いに答えなさい。

(1) 海洋プラスチック問題とはどのようなものかを説明しなさい。

.....

.....

.....

(2) 個人が取り組める海洋プラスチック問題の解決方法を **3R** と関連付けて説明しなさい。

.....

.....

.....

.....

.....

(3) 海洋プラスチック問題に対し日本企業はどのような取り組みをしているか、事例を交え説明しなさい。

.....

.....

.....

.....

この問題を選択した場合は右に○をしてください	
------------------------	--

問題2 環境経営について以下の問いに答えなさい。

(1) 環境経営とはどのようなものかを含め説明しなさい。

(2) 環境経営が企業利益に結びつきうる経路を2つ説明しなさい。

①

②

この問題を選択した場合は右に○をしてください	
------------------------	--

問題3 日本企業の経営の特徴（＝日本的経営）として企業別組合、終身雇用、年功制が指摘される。日本的経営について以下の問いに答えなさい。

(1) 日本的経営が1960年代から1980年代にかけて機能した背景を説明しなさい。

(2) 日本的経営が1990年代以降に機能しなくなった背景を説明しなさい。

産業理工学研究科博士前期課程

(社会環境科学コース)

専門科目入試問題

【経営学】

問題は3問あります。2問を選択して回答してください。

解答例

受験番号

氏名

この問題を選択した場合は右に○をしてください	
------------------------	--

問題1 海洋プラスチック問題について以下の問いに答えなさい。

(1) 海洋プラスチック問題とはどのようなものかを説明しなさい。

海洋プラスチック問題は、プラスチックごみが海に流れ込み、生態系や環境に深刻な影響を与える問題です。海洋生物がプラスチックを誤食することで死亡したり、有害物質が食物連鎖を通じて人間にも影響を及ぼすリスクがあります。

(2) 個人が取り組める海洋プラスチック問題の解決方法を3Rと関連付けて説明しなさい。

海洋プラスチック問題に対して個人が取り組める解決策は、3R (Reduce、Reuse、Recycle) に基づきます。まず「Reduce」では、使い捨てプラスチック製品の使用を減らし、エコバッグやリフィル製品を選ぶことが大切です。「Reuse」では、プラスチック製品を使い捨てにせず、再利用可能な容器やボトルを使用します。「Recycle」では、使用済みプラスチックを適切に分別し、リサイクルに出すことで、新たなプラスチックごみの発生を抑えることができます。

(3) 海洋プラスチック問題に対し日本企業はどのような取り組みをしているか、事例を交え説明しなさい。

日本企業は海洋プラスチック問題に対し、さまざまな取り組みを進めています。例えば、ユニリーバはプラスチック容器を再生可能素材に切り替え、廃棄物削減を目指しています。また、イオンはレジ袋の有料化を推進し、使い捨てプラスチックの使用を減らしています。他にも、多くの企業がプラスチック包装の削減やリサイクル促進を進め、環境への負担軽減に貢献しています。

※ 環境問題の一例である海洋プラスチック問題について、(1)は基本的な理解を確認する。(2)は環境問題への関心を確認する。(3)は環境問題と企業経営の関連についての理解を確認する。

この問題を選択した場合は右に○をしてください	
------------------------	--

問題2 環境経営について以下の問いに答えなさい。

(1) 環境経営とはどのようなものかを含め説明しなさい。

環境経営とは、企業が環境保護を経営方針に組み込み、持続可能な社会の実現を目指す経営手法です。具体的には、資源の効率的利用や温室効果ガスの削減、廃棄物管理などを行い、環境負荷を低減します。また、環境保全活動を通じて企業価値を高め、社会的責任を果たすことも重要な要素です。これにより、環境と経済の両立を目指すことが求められています。

(2) 環境経営が企業利益に結びつきうる経路を2つ説明しなさい。

①

環境経営が企業利益に結びつく一つ目の経路は、コスト削減です。例えば、省エネルギーや資源の効率的な利用により、エネルギーコストや原材料費を削減できます。廃棄物の削減や再利用も処理コストの軽減に繋がります。こうした取り組みは、短期的な投資が必要であっても、長期的に見れば経費を抑え、企業の競争力強化に貢献します。

②

二つ目の経路は、ブランドイメージや市場競争力の向上です。環境に配慮した企業は、消費者や投資家からの信頼を得やすく、エコ製品や持続可能なサービスへの需要が高まる中、選ばれる存在となります。また、環境基準の厳しい市場や規制に対応することで、新たなビジネスチャンスを生み出し、売上増加や新たな市場開拓が期待できます。

※ 企業の環境問題への対応が営利活動と両立しうることについて、経営学の理解と論理的に説明できる思考力を確認する。

この問題を選択した場合は右に○をしてください	
------------------------	--

問題3 日本企業の経営の特徴（＝日本的経営）として企業別組合、終身雇用、年功制が指摘される。日本的経営について以下の問いに答えなさい。

（1）日本的経営が1960年代から1980年代にかけて機能した背景を説明しなさい。

日本的経営が1960年代から1980年代にかけて機能した背景には、急速な経済成長と特有の社会・文化的要因がありました。戦後の復興期、日本は技術革新や輸出拡大を進め、労働力の質も向上しました。終身雇用や年功序列、企業別労働組合といった日本的経営の特徴は、安定した雇用と企業への忠誠心を高め、従業員が長期的視点でスキルを磨く環境を提供しました。

さらに、企業と従業員の密接な関係が、品質向上や効率化を支えました。また、政府と企業の協調関係（産業政策）も、産業の成長を後押ししました。このように、安定した経済成長、高い労働意欲、そして独自の経営システムがうまく機能したことで、日本企業は国際競争力を高め、世界市場で成功を収めました。

（2）日本的経営が1990年代以降に機能しなくなった背景を説明しなさい。

日本的経営が1990年代以降に機能しなくなった背景には、バブル経済崩壊や経済のグローバル化、技術革新の急速な進展が影響しています。バブル崩壊により長期的な経済停滞が続き、企業の成長が鈍化しました。これにより、終身雇用や年功序列といった制度が企業にとって負担となり、持続が難しくなりました。

また、経済のグローバル化に伴い、日本企業は海外企業との競争に直面し、柔軟で効率的な経営を求められるようになりました。従来の日本的経営の硬直性が、迅速な意思決定や市場変化への対応を阻害する要因となりました。さらに、技術革新やITの進展により、新たなビジネスモデルや経営手法が求められ、日本的経営の古い慣習が次第に適応できなくなりました。

※ 日本企業の特徴とその変化を、外部環境の変化と関連付けて論理的に説明できる思考力を確認する。